



# 西川町 議会だより

岩根沢三山神社例大祭

「若い人」シリーズ

「岩根沢太々神楽保存会」のみなさん

活動紹介は裏表紙にあります



2015.1.15 91号

発行 山形県西川町議会

新年のごあいさつ	2頁
12月定例会	3
議会の動き	6
一般質問	7
政策提言	10
行政評価	12
模擬議会	15

※モニターの声は前号の議会だよりに対するものです。

# 12月 定例会

平成26年12月定例会は12月2日から5日までの会期で開かれました。町からは教育委員会委員の任命、工事請負契約、指定管理者の指名、条例の設定及び改正、一般会計・特別会計・病院事業会計・水道事業会計それぞれの補正予算が提出され、慎重に審議した結果、1件の条例が賛成多数、その他の案件は全員賛成で可決しました。

審査した1件の請願は採択され、意見書は全員賛成で提出することになりました。

議会初日に、各常任委員会の委員長が活動報告を行いました。内容は次のとおりです。

### 総務厚生常任委員会

「町民体育館の改築」についての町の考え方や進め方  
「町立病院」の経営状況と接遇問題についての調査経過  
「放課後子どもプラン」の視察結果

### 産業建設常任委員会

「住民にやさしい除雪のあり方」についての調査結果

### 広報広聴常任委員会

「議会と町民の対話の集い」で出された意見の概要



▲流雪溝現地調査

## 議決結果

### 教育委員会委員の再任 (全員賛成)

笹島 智子 さん(吉川)

### 若者定住促進住宅条例 (全員賛成)

木造2階建2LDK6戸、3LDK4戸の入居資格要件や所得要件、年齢制限、家賃等を定めた条例

平成27年1月に入居者の募集を開始して、3月から入居の予定

- ・木造2階建2LDK6戸 家賃4万円
- ・木造2階建3LDK4戸 家賃4万5千円



▲若者定住促進住宅(みどり団地)

**問** 若者定住促進住宅等の維持管理について、コーポ陸合も含め全体の財産管理を今後一元化できないか。

**答** 行政目的にあった担当で今まで管理してきたが、今後一元化すべく事務改善委員会で検討していきたい。



あけまして  
おめでとうございます

議会が持つ監視・審査機能を十分に発揮し  
なお一層努力してまいりますので  
よろしくお願い申し上げます

新年のごあいさつ  
将来への道を開くために

西川町議会議長 井場 榮治

議長のご報告を拝読いたしました。4年と経りましたが、この間、町民の皆さまのご支援、ご協力に對しまして心よりお礼申し上げます。

議会もその使命を果たすべく議会基本条例の制定や政策提言、事業評価などの議会活動を行い、一定の評価を得ることができたものと少しく自負しております。

さて、先の日本創世会議が発表した西川町の将来推計人口は、2040年には3071人に減少すると予測され、将来消滅する可能性がある町に分類されています。

1月1日の町の人口は5千962人です。このまま人口が減少し続ければ町の機能は失われ、崩壊することが懸念されます。

今こそ西川町のあり方をどうするべきか、町も議会も町民の皆さんもこれから何をなすべきか等を今まで以上に考える必要があり、まちづくりの原点に返って、これまでに以上に努力しがらるる時期であると思っております。

# 補正予算

一般会計は当初予算額を1,833万円減額し56億3,468万円に、国民健康保険特別会計は5,936万円を追加し7億3,811万円に、介護保険特別会計は178万円を追加し7億597万円に、公共下水道特別会計は43万円を追加し1億7,768万円に、水道事業会計は295万円を追加して1億3,857万円になりました。

(全員賛成)

## 主な補正予算

(万円未満四捨五入)

### ■一般会計

議会臨時職員賃金	65万円
ふるさとづくり基金積立金	750万円
大井沢温泉管理委託料	123万円
介護保険特別会計繰出金	124万円
障害児通所支援事業費	87万円
産業担い手定着支援金	△200万円
地域人づくり事業委託	109万円
除雪機械修繕料	670万円
橋梁点検・道路施設等点検委託料	730万円
除雪機購入費	△2,150万円
女性消防団発足に伴う制服費等	185万円

### ◆国民健康保険特別会計

療養諸費	3,878万円
高額療養費	1,098万円
国庫負担金等の償還金	960万円

### ◆公共下水道事業特別会計

給料・職員手当等	43万円
----------	------

### ◆介護保険特別会計

地域支援事業の清算に伴う返還金	117万円
-----------------	-------

### ◆水道事業会計

給料・手当・法定福利費	295万円
-------------	-------



**答**

南梅沢地区の流量調査を実施中だ。

上間沢は地元と協議しな

**問**

流雪溝の流量調査はどのくらい進んでいるのか。

**答**

社会資本整備の交付金の補助率が少なかったため。

**問**

除雪機の購入を延期した理由は何か。

## 質疑・応答

**答**

西川町の特産品を送るよう見直しをしたことで、人数で2倍、寄付額で4倍となったが、まだ少ない

ながら検討する。石倉地区は流量が少なく今のままでは可能性は低いと考えている。

**問**

ふるさとづくり寄付金(ふるさと納税)は、町をPRすることにもつながる。今後どう進めていくのか。

**問**

女性消防団員は13名の入団希望があったようだが、定員はあるのか。また、どのような活動をしていくのか。

**答**

町消防団定員300名の一部と捉えている。男性は27名なので8〜15名確保で

**問**

高額医療保険給付金等が増えるとして5千万円を補正計上したが、予防医療で給付金を抑える施策の展開は。

**答**

予防を優先し健康増進をはかるため、健康西川21計画で対応していく。検診受診率を上げ、糖尿病予防等を進める。また、関係機関による協議会を設立し町民運動として展開する。

**問**

水沢温泉館の燃料を木質バイオマスに変更する考えはないか。

**答**

時期は未定だが、木質バイオマスに変更する方向で前向きに今後検討したい。

**問**

月山避難小屋清川行人小屋のトイレ改修要望が地元よりあるがどう対応するのか。

**答**

地元からの要望もあり、今後協議を重ねながら検討して行きたい。

## 地酒・地ワイン・地ビールで乾杯を推進する条例 (全員賛成)

町には、豊かな水を利用した日本酒、ワイン、ビールと県内で唯一3種類の町産酒がそろっていることから、観光PRや消費拡大に役立てることを目的とした条例  
PR用のパンフレットを作成し、愛飲運動を進めていく。

**問** 地酒・地ビール・地ワインによる乾杯条例は、条例を作るのが目的ではなくどうすれば地元の産物を愛飲してもらえるか考えるきっかけにするべきと思うが。

**答** 季節ごとに愛飲して頂くため、夏は地ビール、秋は地ワイン、冬は地酒等時節にあったキャンペーンを実施していく。

## 指定管理者の指定 (全員賛成)

「西川町総合交流促進センター」  
「西川町月山湖水の文化館」  
「西川町水沢温泉館」  
「西川町大井沢温泉館」  
以上4つの施設の管理は、引き続き西川町総合開発株式会社を指定する。

「西川町月山避難小屋清川行人小屋」  
引き続き岩根沢区を指定する。

**問** 水沢温泉館の燃料を木質バイオマスに変更する考えはないか。

**答** 時期は未定だが、木質バイオマスに変更する方向で前向きに今後検討したい。

**問** 月山避難小屋清川行人小屋のトイレ改修要望が地元よりあるがどう対応するのか。

**答** 地元からの要望もあり、今後協議を重ねながら検討して行きたい。

## 役場庁舎耐震改修工事 (全員賛成)

- ①主体工事請負契約金額の変更  
・設計の変更により、3億9,312万円の契約に583万2千円を追加
- ②機械設備工事請負契約金額の変更  
・設計の変更により、5,162万4千円の契約に59万4千円を追加

## 西川町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定 (賛成8 反対1)

空き家等審議会委員の報酬を設定するための改正

## 西川町立研修集会センター条例の一部を改正する条例の制定 (全員賛成)

檜原集会所を削除するための改正

## 西川町一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例 (全員賛成)

人事院勧告及び山形県人事委員会勧告に基づく改正

## 西川町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定 (全員賛成)

健康保険法で国が出産一時金の金額を下げたが、支給額を維持できるように改正した。



健康まつりウォーキング大会

# 一般質問

5人の議員が、次のことについて一般質問を行いました。  
議会だよりには、1議員1項目のみの掲載となりますので、詳しくは町のホームページの中にある12月定例会録画中継をご覧ください。

- 宮林 昌弘 議員 ◆住民自治組織の再編整備について
- 伊藤 哲治 議員 ◆第3セクターの平成26年度中間決算の内容と今後の経営体制について  
◆全国に発信できる自然教育・学習先進地づくりをどう展開するのか
- 奥山 敏行 議員 ◆第6次総合計画で人口 5,000 人を割らない政策は
- 飯野 咲子 議員 ◆平成27年度予算編成にあたって  
◆福祉灯油券の交付について
- 青山 知教 議員 ◆高齢者住環境整備状況について  
◆町に名産・名品・名所・B級名物料理で、観光交流雇用の拡大を



宮林 昌弘 議員

## 住民自治組織 集落機能の整備を急げ

町長 早く対策を進める必要があると考えている



▲県道改良現地視察をする各区長

**問** 人口、世帯数の減少と高齢化の進行により、集落機能維持のため、住民自治組織の整備について質問する。

①区長会は行政区長と財産区長に区別して招集すべきである。行政区の設置に関する条例を制定できないか。

②世帯数の少ない町内会を自主的に統合した場合、集落機能維持交付金を考えられないか。

③6次総で集落機能の整備のため、地域づくりセンターを設置し、専属職員を配置する必要があるが、早急に立ち上げてもらいたい。

**答** ①区長会は任意の親睦団体で、情報交換や連絡会の活動をしている。各地区の規約等に基づき活動しているのだから、条例制定は考えていない。

区長には、地区と町との連絡調整をおこなう行政区長の役割と町有林運営委員である財産区長の役割があり、それぞれ非常勤特別職に委嘱している。これまで行政区長の会議に財産区長も招集しているが、来年度からはそれぞれの役割を明確にしたい。

②町内会の統廃合等は地域が検討すべきことだ。財政的支援は地域づくり交付金制度を創設して支援している。

③高齢化や人口減少が進む中、地域内の組織や役割の見直しは欠かせない。早めに対策を進めて行く必要があると考えている。

# 請願審査 意見書の提出

2件の請願があり審査の結果、1件が全員賛成で採択され、1件が継続審査となりました。

採択された請願は、関係大臣に意見書を提出します。

**採択された請願の意見書**

「米の需給安定対策に関する意見書」

26年産米の価格下落と米の直接支払い交付金の減額は、生産者が将来にわたって安定的な稲作経営を行う事を阻害するものであり、米価変動に対応した経営安定対策、26年産米にかかる緊急対策を求める意見書。

提出先 内閣総理大臣  
財務大臣  
外務大臣  
厚生労働大臣  
農林水産大臣  
経済産業大臣  
経済再生担当大臣



### 第4回臨時会 10月9日開催

☆平成26年度町道海沢根際線あづま橋架替工事請負契約  
・6千782万4千円で後藤建設株式会社と契約

☆町立診療所条例の一部改正  
・岩根沢診療所を公民館に移転するための改正  
(全て全員賛成)

### 第5回臨時会 10月29日開催

一般会計補正予算(第4号)  
☆大井沢温泉孔内改修工事費  
46万4千円を追加

☆町道松原橋測量設計委託料  
350万円を追加  
(全て全員賛成)

## 議会の動き

- 議会全員協議会**
- 10月29日 新エネルギー改正版等
  - 12月2日 まちづくり基本条例等
  - 12月22日 行政評価・政策提言最終確認
- 議会運営委員会**
- 10月24日 第5回臨時会の運営
  - 11月21日 第4回定例会の運営
- 総務厚生常任委員会**
- 10月20日 放課後子どもプラン
  - 10月29日 第6次総合計画の検討
  - 11月26日 事務事業評価
  - 11月26日 自主防災組織の検討
  - 12月4日 事務事業評価・政策提言の検討
- 産業建設常任委員会**
- 10月29日 高齢者にやさしい除雪
  - 11月10日 事務事業評価
  - 11月18日 事務事業評価
  - 11月26日 事務事業評価・政策提言の検討
  - 12月4日 請願審査・政策提言の検討
- 広報広聴常任委員会**
- 10月17日 議会だより特集号編集
  - 10月24日 議会だより特集号編集
  - 10月28日 模擬議会準備会議
  - 12月4日 レイアウト会議
  - 12月9日 議会だより編集会議
  - 12月19日 第1回校正
  - 12月24日 第2回校正
  - 12月26日 アドバイザー指導
  - 1月8日 最終校正
- (11月26日産業建設常任委員会1人欠席、その他全員出席)
- 視察受け入れ**
- 10月14日 福島県川俣町議会「議会活性化」
  - 10月16日 福島県棚倉町議会「議会活性化」



飯野 咲子 議員

## 27年度 予算 できることから確実に

町長 一つひとつの意見を大切に町民のための政策を実施していく



▲多くの高齢者に観てもらいたい中学校祭

**問** 6次総の2年目にあたり、重点課題をどのように捉えているのか。できることから着実に始めようではないか。

①町の花である「菊の一鉢運動」に取組んでいるのか。

②町の祭等と町を訪れる方々の日程をマッチングする取り組みが必要ではないか。

③保育園や学校の行事を高齢者が参観できるようにできないか。

④夏の夜の祭の復活を検討してどうか。

⑤ふるさと納税のお礼は町内一流品の活用を。第6期介護保険事業はどうなるのか。

⑥可能な限り町民の負担を抑え、最後まで自分らしく安心して暮らせる地域包括ケアシステムを構築していく。

**答** ①菊づくりの裾野を広げることが重要。町民が興味を持つ機会を設けるとともに、指導者の確保に努める。

②会議の日程はメンバーとの調整により行うが、できる範囲の中で調整を図り交流人口の増加につなげていきたい。

③地域の方と交流が持てるように多くは土日開催としているが、関係者と連携を図り、その機会を増やしたい。

④夏祭り復活の意見があることは承知している。関係者の意見を聞きながら、可能性を探ってみる。

⑤お礼の品は全国競争に入っている。さらに研究を重ねる。



青山 知教 議員

## 高齢者 住宅 整備状況はどうなっているか

町長 認知症の方の介護施設を合わせて建築する



**問** 地域密着型施設サービスの充実として、平成28年度開設予定の小規模多機能型居宅介護事業所とサービスポイント付き高齢者住宅の合築の説明を受けた。今年3月の説明ではサービスポイント付き高齢者住宅のみであったが、変更された理由と、次の点について説明を求めたい。

**答** 高齢者住宅の整備が必要であることに加え、国の制度変更により町外の認知症支援施設の利用が制限されることになったので「サービスポイント付き高齢者向け住宅」と「小規模多機能型居宅介護事業所」とを合築することにした。

①介護認定の有無にかかわらず自宅での生活が困難になった高齢者が介護が必要な認知症の高齢者などを対象にする。入居者数は20人以上で検討中。家賃は年金で対応できる金額としたい。

②安否確認、生活相談、食事提供、入浴・排泄・食事介護、洗濯・掃除などのサービスを行う。

③ケアハウス西川を含む事業者の中から選定し、一貫したサービスが提供できる運営体制にしたい。



伊藤 哲治 議員

## 第3 セクター 中間決算と 今後の経営体制は

町長 経営内容は厳しいが体制は検討中だ



▲販売の拡大が望まれる月山自然水と地ビール月山

**問** 第3セクターに対して毎年5千万円を超える委託料を予算計上してきたが、その経営は一向に改善されず、累積赤字額は西川町総合開発(株)が約5千万円、(株)米月山が1千8百万円となっている。今後どのように建て直し、事業運営を行なっていくのか。

①設立した目的及び趣旨と今後の見通しは。

②今年度中間決算内容をどう評価し、事業運営はどう進めるのか。

③経営体制・組織体制を今後どう進めるのか。具体策は。

**答** ①西川町総合開発(株)は、産業や産物の生産拡大、雇用創出などで町の活性化を図る。総合商社機能を発揮し、農家と連携し販路拡大を図る。

(株)米月山の目的は、発芽胚芽米製造による米の消費拡大と農家の所得向上、就労場の確保など。関連商品の製造販売と町内産米の精米販売を行う。

②9月中間決算は、西川町総合開発(株)は純利益が685万円、昨年より悪い。需要の高い商品確保と関連商品企画開発に注力した経営を行う。

(株)米月山の純利益は178万円、昨年より良い。発芽米と町内産米の販売に絞った経営に転換した結果改善した。

③不備な点や改善すべき点の検討をしている。結果を踏まえ対処する。

## 総合 計画 人口5,000人を割らない政策はどう進めるか

町長 重点プロジェクトに基づき作業を進めている



奥山 敏行 議員



▲少子化により解体中の沼山小学校

**問** 町は、昭和61年にクオリティ・ライフ研究所を創設して西川塾を開校した。若者が夢を語り勉強し、今でも活躍している多くの町民がいる。一方で町は、ハード面は変わったが、ソフト面では振興策を語るのみで、生活の基盤である商店が激減し、農林業は高齢化で耕作放棄地が増え、山林は荒れている。町を運営するには人口減少に歯止めを掛けなければ一歩も前に進まない。人口5千人を割らない政策はどのように進めるのか。

**答** 5千人を割らないための政策と施策の展開方針は、第6次総合計画策定時に全議員に説明しており、計画書に記載のとおりだ。出産や子育て、教育環境を整えることや健康で長生きしてもらうこと、雇用先の確保や産業振興を行い、所得を確保し、魅力的な文化や生活価値を創出し、町外から移住してもらえようとするといった総合的な取り組みが必要となる。

現在、6次総の重点プロジェクトに基づき、健康づくり対策、仕事づくり対策、定住対策、子育て対策、自然教育振興対策などに力を入れるべく作業を進めているところだ。

5人の一般質問

5人の一般質問

# 政策提言を生かせ

総務厚生常任委員会、産業建設常任委員会では事務事業調査を行っており、その中から政策提言をとりまとめて12月25日に町長に提出しました。

総務厚生常任委員会は、異常気象により自然災害が多発していることから、地域防災対策が緊急の課題と捉えその強化対策について提言しました。

産業建設常任委員会は、近年大雪が続いており多くの町民が雪を負担に感じていることから、日々の除雪の負担軽減を図るための除雪対策について提言しました。

## 総務厚生 常任委員会

### 安全安心なまち づくりのつとめ

東日本大震災以降、地域防災対策が緊急の課題となっております。議会では、平成24年3月の定例会で、地域防災対策の強化策についての事務調査報告を行なっています。近年、全国で豪雨、噴火さらには豪雪などの大規模災害が発生しています。年々自然災害発生危険性は高まっており、町民の安全・安心のための対策が一層求められていることから、次の施策について提言しました。

### 提言内容

#### 1、大規模災害への 防災対策の強化

①町は、地震や豪雨・豪雪などの異常気象により引き起こされる被害を最小限に食い止めるため、県との連携により、同報系防災行政無線などの迅速な情報伝達手段の整備を早急に進めるとともに、より確実に情報が地域住民に行き渡る方法について検討すること。  
②地域防災の要である消防団の減少に歯止めをかけるために効果的



町防災訓練

な対策を講じるとともに、大規模災害に備える必要な消防団装備の充実について取り組むこと。  
③避難計画を策定する上で重要なハザードマップの完成が計画より大幅に遅れており、早急に全地区で完成するように急ぐこと。  
④警鐘をサイレンに変更したものの一部聞えないところがあることから、早急に現状を分析し対応策を検討すること。  
⑤災害時の避難施設が一部老朽化していることから、耐震化対策を検討すること。  
⑥災害発生時に支援に訪れるボランティアを受け入れ、早急にかつ住民の要望に応じた柔軟な活動ができるよう社会福祉協議会等の組織整備を確立しておくこと。

#### 2、自主防災組織の 機能強化

①自分を守り隣人を守り地域を守る自主防災組織は、人的被害を最小限に食い止めるため

#### 3、地域防災力強化の ための他市町村との 連携

大規模災害時の県内市町村広域相互応援のみならず、文化交流等の広範囲分野を含めた県外市町村との災害支援ネットワークを構築すること。

※同報系防災行政無線  
屋外拡声器や戸別受信機を介して、役場から住民等に対して直接・同時に防災情報や行政情報を伝えることができる機能を持つ無線

## 産業建設 常任委員会

### 住民にやさしい除雪システム

西川町の道路除雪は県内でも高い評価を得ているが、近年の大雪に、町民は大きな負担を感じています。

除雪の負担を軽減しなければ人口減少に拍車をかけることになり、町の存続にも係わる問題となります。

半年間雪に埋もれる豪雪地帯であっても、快適で安全に暮らすための対策は必要なので、次の施策について提言しました。

### 提言内容

#### 1、道路の除雪について

①救急車や消防車がいっつも通れるようにすること。  
②早朝勤務や深夜帰宅ができるようにすること。  
(2)家の前に雪を置かない除雪体制の整備  
高齢者世帯だけでなく各世帯の住宅入口前には可能な限り雪を置かないようにすること。

#### 2、流雪溝の整備について

(1)寒河江川の水利用具現化  
国や県に働きかけ、



▲道路を広げるための運搬排雪

許認可を得られるようにすること。  
(2)慣行水利権の課題解決  
①地元だけで解決することは難しいので、町は積極的に協力すること。  
②町民みんなが克雪について学習する機会を設けること。

#### 3、流雪溝が作れない場所 の、日々の除雪の負担 軽減対策について

①身近な場所に雪捨て場を確保し、町が定期的に排雪を行うこと。  
②時間を決め、出勤前に敷地内の雪を道路に出し、除雪車で排雪するなど具体的な対策を講じること。  
4、若者定住対策について  
若者が定住できる環境を整備するために意見を聞き、対策を講じること。

#### 5、高齢者支援について

(1)確実に支援できる体制の整備  
人手がほしい時に、順番待ちとならない体

制を整備すること。  
(2)無理なく支援できる体制  
①町内会など身近な単位でボランティアを組織し、地区住民全員が活動内容を理解できるようにすること。  
②地域内ボランティアだけで解決できない状況になった場合に備え、支援体制を整備すること。  
③支援ボランティア活動への支援策を講じること。  
・除雪機械購入に対する補助  
・除雪機械燃料代に対する助成  
・月山ふれあいあいカード商品券の活用など、町内経済循環も考えること。

#### 6、利雪・克雪の学習 活動について

(1)町民に役立つ情報の提供  
雪の利活用や生活する中での除排雪のあり方、機材の活用方法、雪を楽しむ生活などについて、積極的な情報の提供を行うことがで

きるようすること。  
(2)町民が学習できる場の提供  
・安全確保のために必要な除雪のあり方  
・融雪のための地下水や湧水の活用の研究  
・融雪機材の研究  
・雪室の研究  
・雪を楽しむ生活のあり方

7、国や県、大学などと連携した雪対策研究の誘致について  
日本一雪が多い場所に集落がある町の特異性を生かして、国や県、大学等の研究機関を誘致すること。



### 3. 高齢者就業開拓事業 直接事業費 135万9千円

<b>【事業概要】</b> 高齢者が地域での就労を通じて社会参加し、活躍できる機会の増加を図るもの。高齢者がこれまで身に付けた技術等を生かし、地域における草刈や除雪等の身近な環境整備を通して地域福祉活動に貢献する機会を増やすために1名雇用した。		
議会	6 廃止	平成24、25年度限りで、補助金があったから取り組んだ事業であり、受託件数が0件であった。就業開拓は必要だが、シルバー人材センターが本来の業務として取り組むべきだ。
町	5 期間設定し終了	高齢者の就業機会確保事業等により、就業の開拓も行えると思われる。

### 4. 青少年育成推進に要する経費 直接事業費 44万5千円

<b>【事業概要】</b> 未来を担う青少年が豊かな人間性と社会性を育み、自立した社会の一員として成長できるよう、青少年育成支援団体等の活動を支援、推進する。青年グループ GEN の斬新な発想での活動を支援、促進する。		
議会	3 改善し継続	必要な事業であるが町の関わりがあまりにも不足している。町の報告でも、この事業に対する熱意が感じられない。
町	2 現状のまま維持	若者同士の交流促進や高校生ボランティア等の活動支援により、青少年の健全育成に貢献でき、町民会議推進員を中心とした地域全体での見守り育成活動を充実していく。

**事業概要**  
湖月山荘は寒河江ダム建設に伴う機能補償として整備した寒河江ダム周辺振興センターであり、ダム水没移転者のための休憩所、食堂及びダム水没集落の民俗資料等の展示室を兼ねた施設として維持管理してきた。



▲老朽化した湖月山荘

**抽出理由**  
平成25年度に食堂営業をやめたことで、利用者がいなくなったことと、築35年と老朽化が進んだことから、維持管理の必要性について疑問が持たれるため。

**議会の評価**  
6 「廃止する」  
現在、食堂の営業は取りやめており、展示室の利用もなくなっているが、1階はカヌー艇庫として利用されている。カヌー艇庫以外の利用がなく、今後とも利用は見込めない。維持管理経費がかかるので、速やかに解体について検討すべきである。

**町の評価**  
3 「改善し継続」  
湖月山荘は、当面カヌー艇庫として必要である。  
その他の事業評価は次のとおりです。

### ◆産業建設常任委員会◆

評価は次のような観点で行いました。

#### 1. 湖月山荘管理委託

直接事業費 290万4千円

#### 抽出理由

現在、食堂の営業は取りやめており、展示室の利用もなくなっているが、1階はカヌー艇庫として利用されている。カヌー艇庫以外の利用がなく、今後とも利用は見込めない。維持管理経費がかかるので、速やかに解体について検討すべきである。

湖月山荘は、当面カヌー艇庫として必要である。  
その他の事業評価は次のとおりです。

### 11事業を選択

# 行政評価



西川町議会では平成24年度から行政評価を行なっています。議会による行政評価は、議会の監視機能を生かして町が実施している政策、施策、事務事業等について、必要性、妥当性、効率性、成果等の観点から評価しました。今回は平成25年度に実施された事業の中から総務厚生常任委員会で4事業、産業建設常任委員会で7事業の11事業について、行政評価を行いました。また、行政側にも評価を依頼し、議会と行政の対比も行なっています。

評価基準	1 拡充する
	2 現状のまま維持する
	3 改善し継続する
	4 見直しのうえ縮小する
	5 期間設定し終了する
	6 廃止する

### ◆総務厚生常任委員会◆

評価は次のような観点で行いました。

#### 1. 高齢者就業機会確保事業

直接事業費 150万円

#### 抽出理由

シルバー人材センターの会員数は増加しているが、受委託件数は減少しているという現状の問題点を把握するため。

#### 事業概要

高齢者が働くことを通じて生きがいを得ると共に、地域社会の活性化に貢献できるように西川町シルバー人材センターの円滑な運営を助成している。

#### 議会の評価

3 「改善し継続」

登録者12人のうち実際活動した人は99人で、



▲シルバー人材センター会員による門松作り

活動しなかった人は22人であった。高齢化が進んでいる現在、生きがい創出は重要であるが需要と供給がマッチングしていない部分があるのではないかと。需要に対応できるように登録者の質的向上を図ることや新規開拓するための専門職員をセンター内に置くことなど組

織体制を見直し、機能が十分発揮できるように検討すべきである。  
**町の評価**  
2 「現状のまま維持」  
高齢者の生きがい対策としてシルバー人材センターの運営は重要であり、国、県と同調して継続する。  
その他の事業評価は次のとおりです。

### 2. 老人福祉費 敬老事業 直接事業費 102万4千円

<b>【事業概要】</b> 高齢者を敬愛し長寿を祝うため、満88歳に達した方へ賀詞を贈呈し、満100歳に達した方へは賀詞及び敬老金（20万円）を贈呈する。		
議会	3 改善し継続	長寿のお祝いであることから現行制度を継続すべきだが、祝い金の金額の見直しや商品券との併用を考えるなど総合的な検討が必要だ。
町	2 現状のまま維持	高齢者に対し、地域貢献への感謝や町民の長寿を助長するうえで、今後も継続する。

# 中学生・高校生が活発に質問 模擬議会開催



## 堂々と発言！

60周年記念事業として西川町議会が主催した、中学生と高校生による模擬議会が11月15日に議場において開催されました。開会を前に模擬議員証が交付され、サポート役を務める現職議員と二緒に議場に入場しました。開議に先立ち、井場榮治議長から、「生徒のみなさんには議員の役割を理解し、将来を担う若者の意見を主張してほしい。町長には本日出された要望は速やかに解決し、発展的な意見は政策にいかしてほしい」というあいさつがありました。小川一博町長からは、「本日の議員になったつもりで意見を出してほしい」という激励のあいさつがありました。模擬議員は、緊張感に包まれながらも未来を担う若者の代表にふさわしく、堂々と発言しました。



写真右から

- 工藤 優佳さん (中2)
- 阿部さくらさん (高3)
- 山下 一馬さん (中1)
- 菊地 輝さん (中2)
- 柴田 薫さん (中2)
- 土田 巧海さん (中2)
- 佐藤 花さん (中1)
- 三沢 涼太さん (高3)
- 片倉 結香さん (中2)
- 高橋 世那さん (中2)

質問の内容は、今年から始まった「三山祭り」の成果や月山湖大噴水のPR強化、少子高齢化対策や三山電車の復活、町立病院のバリアフリーやみどり団地造成の問題、菊まつりの振興対策や町民体育館の新築、自転車道路の照明の整備や中学校体育館の雨漏り対策、若者定住対策や志田周子映画化のメリット、日曜日の部活にスクールバスの運行や商業施設誘致、月山湖に世界の選手が使えるカヌーキートルコースの設置、SNSの活用した情報発信やイメージキャラクターの活用などたくさん意見が出されました。議会では中学生、高校生の皆さんからいただいた意見を大切に、議会活動に生かしていきます。

※SNS(ソーシャルネットワーク・サービス)とは、電子機器を活用し、互いが友人を紹介し合い、新たな友人関係を広げることを目的とするサービス。

## 2. 月山ブランド促進事業 直接事業費 299万3千円

【事業概要】		月山にこだわった産物をブランド化し全国に情報発信する。ブランドに相応しい商品のPRやブランドに育て上げる商品の掘り起しと商品開発を実施している。
議会	3改善し継続	町のブランドを作る必要は大いにある。ブランド品は常に消費者が目にし、いつでも購入できるようにしなければならない。また、ブランド品は農産物だけではない。
町	2現状のまま維持	ブランドとなる商品づくりに時間と経費を要することと担い手確保の面で効率性は低いが、町全体で取り組むことによって全体のレベル向上につながるため、必要性はある。

## 3. 仁田山放牧場事業運営費 直接事業費 634万8千円

【事業概要】		畜産農家の乳用牛・肉用牛を夏山冬里方式で預託し、放牧・肥育することで、低コスト生産を実現し、農家の経営を安定させる。
議会	3改善し継続	①当面は町外の利用者がある自治体から、運営負担金を徴収すべきだ。 ②西村山地区等の広域での経営を積極的に模索すべきだ。 ③広域経営の形態になった後は、町内利用者に対する助成等を検討すべきだ。
町	2現状のまま維持	町内畜産業者は減少しているが、畜産経営支援上放牧事業は有効である。事業運営上について、西村山管内及び関係市町村との協議は必要である。

## 4. 商工会育成補助事業 直接事業費 200万円

【事業概要】		商工会が地域振興事業により町独自の取り組みを展開し、町内商工業者の活性化につなげるために育成補助金として交付している。
議会	5期間設定し終了	育成は終了しており、廃止とすべきだ。町の商工行政の推進政策を明らかにして、政策に沿った事業補助とすべきだ。
町	2現状のまま維持	町内商工業のための独自の取り組みを支援し、町内経済の活性化を図るものだが、具体的な事業支援への移行も検討する。

## 5. 教育旅行拡充事業 直接事業費 42万4千円

【事業概要】		民宿経営者などで教育旅行を受け入れることにより所得の向上と地域活性化を図る。
議会	3改善し継続	町の受け入れ環境と民宿に対する評価は良いが、民宿の存続についての課題は大きい。町にある廃校舎等の利活用の在り方も検討すべきだ。
町	3改善し継続	大井沢地区を中心に事業展開しているが、岩根沢地区やその他の地区との連携、「(仮称)自然教育・学習センター」の設置を図り、受け入れ体制の整備を図る必要がある。

## 6. 月山湖噴水管理運営事業委託 直接事業費 1,330万7千円

【事業概要】		噴水打ち上げ運転業務は、水の文化館の業務委託をしている西川町総合開発㈱に委託し、点検整備業務は噴水装置の製造、建設、設置業者のクボタ機工(株)東北営業所に委託している。
議会	3改善し継続	町は噴水管理だけでなく、観光誘客も併せて考えるべきだ。噴水のオーバーホールは時期を明らかにし、存続か廃止かの検討が必要だ。担当が建設水道課になっているが、観光の面から考えた体制の見直しが必要だ。
町	2現状のまま維持	西川町のイメージPRと観光振興のため必要。

## 7. 寒河江ダム展望広場管理運営事業(水の文化館管理委託) 直接事業費 1,333万3千円

【事業概要】		敷地内の環境整備を図ると共に水の文化館(売店も含む)を西川町総合開発㈱に委託している。
議会	3改善し継続	施設内の展示や商品に工夫を凝らし、噴水が見える観光スポットとしての強みを生かし、サービス向上を図り立ち寄ってもらえる施設となるよう改善が必要だ。担当が建設水道課だが観光、特産物販売等を考えると複数の課が連携すべきだ。
町	2現状のまま維持	施設は当面維持していくが、施設でのイベントや展示などでの充実を図る必要がある。



『若い人』シリーズ 9

いわねざわだいだいかぐら  
岩根沢太々神楽保存会の活動



代表 岩本 寿一さん (岩根沢)

岩根沢三山神社に伝わる岩根沢太々神楽は、明治の初めころ、福島県伊達地方から伝えられたといわれています。

神楽には宮廷で行われる御神楽と民間で行われている里神楽がありますが、岩根沢の神楽は、神話を題材に、面をつけて、奉納を目的とした出雲系神楽に属しており、里神楽の中でも大変貴重な神楽と考えられています。

当初、面をつけて舞う大神楽36座、面なしで舞う小神楽12座、合わせて48の演目が伝えられました。年月とともに継承がすたれ10座しか演じることができなくなりました。

神楽員も減少したために、昭和51年に岩根沢太々神楽保存会を結成しました。会員数は29人で、子どもたちにも教えています。

神楽の奉納は、5月3日の要害神社の春祭りと、9月第2日曜日の例大祭の2回ですが、活動がマンネリ化していました。

現状を打破しようとする町修制度を活用して、伊勢神宮への神楽奉納を計画し、申請したところ幸いにも許可が得られ、会員一同を引き締めて練習に励み、平成25年11月3日に、伊勢神宮の特設舞台上で奉納しました。

得難い経験に、会員の意欲も高まり自信にもつながりました。同時に新たな会員の入会もあり、今後の活動に弾みがつきました。

この活動で一番感じたことは神社関係者や会員はもとより、地域の方々の理解と協力を得ることの大切さです。

これからも、保存会の活動を地域づくりの一つと位置づけ、地域と一緒に活動できるよう取り組んでいきます。

神楽の担い手の育成を通じて「人づくり」にも力を入れ、現在は10座の演目です。



▲ 太々神楽保存会のみなさん

ですが、地域の方々や保存会の先輩方の協力をいただき、舞の復活と夜神楽奉納が実現できるよう、そして次世代に伝えられるよう活動の輪を広げて行きたいと考えています。

編集後記

憲法前文の出だしは「日本国民は、正当に選挙された国会における代用者を通じて行動し、・・・とあります。これは、議会制民主主義が我が国の統治原理であることを謳ったものです。

新年を迎え、この憲法の精神を胸に、町民の代表として今後とも町民の負託に応えていかなければと、心新たに決意しているところです。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

(横山 修)

議会へのおさそい

皆さん傍聴してみませんか

インターネットでもご覧いただけます

次回定例会は  
3月です

(3月4日～13日の予定)

- 《発行・編集責任者》  
議長 井場 榮治
- 《編集委員》  
委員長 横山 修  
副委員長 佐藤 耕一  
委員 伊藤 哲治  
委員 佐藤 幸吉

● 感想お寄せください。